

「永山まちづくり推進協議会」会議録（令和6年度第1回）

○日 時 令和6年5月24日（金） 午後6時00分～午後7時20分

○場 所 永山公民館 2階 講堂

○出席者 ・委員14名（50音順） （欠席者3名）

入谷委員，内田委員，葛西委員，紙谷委員，北村委員，工藤委員，桑島委員，
島田委員，高橋委員，土田委員，豊島委員，幅崎委員，三上委員，村井委員

・アドバイザー3名

旭川市教育委員会2名

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会1名

・事務局職員4名

永山支所長，同副支所長，同市民係主査，永山公民館長

○会議の公開・非公開 公開

傍聴者0名

○会議資料

- ・会議次第
- ・永山まちづくり推進協議会委員名簿
- ・アドバイザー出席名簿
- ・旭川市地域まちづくり推進協議会設置要綱
- ・永山まちづくり実行委員会会則
- ・永山まちづくり推進協議会の会議ルール
- ・地域まちづくり推進協議会（まち協）とは
- ・永山まちづくり推進プログラム
- ・令和6年度 地域活動計画
- ・令和6年度 永山まちづくり推進協議会スケジュール

※当会議録中では，次のとおり表記する。

- ・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開会

2 市民生活部長挨拶

事務局長が代読した。

3 委員，アドバイザー，事務局の紹介

4 会議の運営方法について

（1）役員選出

事務局から，協議会及び本実行委員会の組織について説明を行った後，会長の選出に入った。委員から桑島委員を推薦する発言があり，他の委員から異議がなかった

ことから、桑嶋委員を会長に選出した。

会長から就任の挨拶があった後、副会長等の選出に入り、会長からそれぞれ指名があったことを受け、葛西副会長、工藤会計、高橋監査を選任した。

なお、葛西副会長からも就任挨拶があった。

(2) 会議のルールの確認について

事務局から、本会議は原則公開となり、発言等は会議録として記録され、公表されることなどの会議ルールについて説明。

5 意見交換

(1) 次第5 (1) ~ (4)

事務局から地域まちづくり推進協議会(まち協とは)、永山まちづくり推進プログラム、地域活動計画、スケジュールについて説明。

(2) 永山地域の課題と取り組みについて

地域の課題や取り組みについて意見交換を行った。委員の主な発言は次のとおり。

(委員)

「通いの場」として、高齢者の方が歩いて行けるところ、歩いて通える場所がなくて大変苦労しているところです。老人クラブがなくなり、バスやJRも遠くて使えないという方もいらっしゃる。

以前は病院の受付場所を午後開放してもらったりもしてましたが、コロナになってからはなかなかできなかったりですとか、比較的私たちが関わっている事業所の方々はとても好意的なので無料で貸してくれているっていう現状もあるんですけど、事業所の都合で「もう来月からだめなんだ」と言われることも多く、高齢者の方が集まる場所が作れない地域もあるところが課題だと思います。

スーパの冷めない“きずな”づくり事業に関して、集まる場所だけではなく訪問して交流できるっていう事業を立ち上げたというのが背景にもありますけど、今すぐ取り組みができるかは別としにしても、特に当麻寄りの高齢者の方で今80代くらいの方が車に乗れなくなったら、買い物などの課題が永山地区では出てくるのではと日頃感じているところです。配達サービスもありますが、見て買いたい、行って買いたいという高齢者の方もいらっしゃるので、買い物困難者が出てくるところも課題だと思います。

認知症の方への支援というのは全国的な課題だと思っておりますが、特に最近では若年の認知症の方、又は今後認知症になる可能性がある物忘れとかをし始めた方、軽度認知症の方の支援が課題と感じています。

日頃、認知症という病気の啓発や認知症の方を地域で支える仕組みを作る取り組みを行っていますが、まだまだ認知症は隠すべき病気だと感じているご本人やご家族もおられたりですとか、行方不明になってしまう方もいらっしゃるもので、前年度(まち協から)卒業した、第三のSOSのネットワークも今後有効になると思いつつも、ご家族、ご本人が隠してしまうのが大きな課題と感じています。

(委員)

今、交流の場所が少ない、足りない、ということを聞きましたが、その場合っていうのは例えばバスか何かで移動させていただいて、場所さえ提供すればできるというお話でもあるんでしょうか。期間限定になるかも何とも言えないですけど、提供できる要素はあります。

(委員)

市民委員会、町内会の今抱えている課題というのは、役員の担い手不足だったり見まもり活動の担い手不足、担い手の方も高齢になってきて、なかなか見まもり活動が充実していかないところも一つの課題かなと思っています。

今、定年等も伸びて若い世代で地域活動に積極的に参加する方がいない、65とか70まで働いている状況なので、やむを得ないかなと思うんですけども、そういう方々に少しでも力になってもらえるように市民委員会、町内会では働きかけをしているところですが十分まだ成果をあげてないというのが現状で、これが課題かなと思ってます。

もう一つ、今うちの町内会で取り組んでるのが暮らしのアプリって旭川市のアプリがあるんですけど、町内会で登録して役員まで何人かはアプリで連絡も取れるようになってきてるので、それをもっと回覧板の回覧など、一般の会員の方にもこれから広めていこうと、そういう中で町内会活動に興味を持ってもらえたら嬉しいなと思っています。

(委員)

先ほどお話しがあったアプリの件、非常に興味があって、私どもも発信できるかなという考えですけど、受ける方が同じ高齢者で、アプリを使い、タブレットを使いこなすのが非常に困難かと。悩みは同じです。高齢者が役員をやって、担い手がない。若い世代が町内会に未加入の方が多い、というのが非常に問題で役員を引き受けたら、引継ができないでそのまま長く行こうという形で、市の連協のほうでも何回かお話ししたんですけども、全市的に同じような問題を抱えている。町内の加入率が悪いとか、役員の担い手がないとか、旭川市みんなが悩んでると。ましてや、今話題の高齢者の一人暮らしとか、家が空き家になってくるとか、同じ町内で抱えている問題の一つで、どうしていいかというのは、旭川市と連携を取りながら考えていくところでございます。

(委員)

課題を絶えず抱えてしだいに高齢者の組織になりつつあるというのが実態ですね。ちなみに市民委員会もそうだと思いますし、町内会自身もそうだと思います。市民委員会の中では、いろんな行事だとか活動があり、それからこういった関連団体の結びつきによる作業というのがいろいろあります。

そういうものを見直して、よりスリムにしていこうというのが当市民委員会の一つの方向性、これからの方向性です。例えば屯田まつりの設営ですとか、協力支援の作業についても、だんだん老体に鞭打ちながらというのも難しい話になってきている状態です。そんな中で、やはり世代交代をどうやって図っていくのかというのが、市民委員会の課題ではなかろうかと考えています。では一体何をやるのかというと、元気なうちは一生懸命こう

いった会議にも参加させていただき知識を増やして、お手伝いできることは何でもやっていこうと考えております。どうぞよろしくお願いします。

(委員)

子ども世代から高齢者世代まで、こういう行事をやります、参加していただきたいというPRをやっていますが、足腰が弱ってきて参加したいけどその場所まで行けないという方が年々増えてきているかなと思います。

逆に若い世代の子育てサロンはある程度参加率が高くなってきたけど、小学生から中学生、高校生になるとそんなに参加率は良くない。あと高齢者になると、逆に参加率が下がってくるからどうやったら新規の活動のつなぎ役になれるかと、少しずつ実施する内容を変えつつ参加率をあげるようやっていますが、町内会の加入率が低下するっていうことは地域活動が低下するから、町内会の加入率を上げるため、町内会の魅力づくりで良い御提案を市民委員会の方々にも考えていただいて、各町内会におろしていただくとありがたいです。

(委員)

高齢化、だんだん催し物をしても集まってもらえない、それから集まるための移動手段がないというようなことがある。その辺は高齢者にもご理解していただく、それを助ける人を一人でも多く、担い手を探さなければならないと思っております。地域のいろんな委員会があるので、それらを有効に利用してですね、地域の福祉協議会につないでいきたいなと思っておりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いしたいと思っております。

(委員)

担い手について、なかなか手を「はい」と挙げてやっていただける方がいなくて、願っているようなところなんです。また、内部組織、青年部・女性部という方がいるんですけど、それぞれ高齢化だったり、青年部の方につきましては、加入していただく方も少なくなっているのが現状でございます。今一番問題なのはコロナ禍が明けて経済活動も多くなってはきてるんですけど、人手不足とか人材確保に課題を置いている方が多いです。

(委員)

私は、永山健康マイレージとスーパの冷めない“きずな”づくり事業に参加させていただいてまして、学生の若い世代がそこに加わりながら、地域の課題とか社会の課題というものをいかに身近なこととして捉えて、自分が社会に出たときにどう働きかけていけるのかというところを考えさせたいなと思ってしています。まちづくりのこういう事業があるからということではなくて、もっと普段の授業ですとか関わりの中で、一人でも多くの学生にその意識をもってほしいと思うんです。けれども、いかに大学の管理だったり、学生を組み込みながら参加していくか、モデルの中にどうやって入っていけるかというところはしっかり模索しながら、行動していきたいと思ってしています。以前に施設の、あるいは独居の方の栄養調査を実施させていただいて、思った以上に低栄養リスクの高い高齢者がいら

っしゃるということが見えたので、待ったなしだなという現状の中で、地域のつながりで食支援をしていけるか、考えながら行動していきたいところです。

(委員)

永山地区の消防団としましては、今団員数でそれぞれ3分団、地区的には旧東区、中央地区、西地区というようなことで分団が分かれてまして、現在65名で地域で一番身近な防災官としての役割を果たしているかと思います。課題としては団員数の確保が難しくなっているところで、直接活動が見えない部分もあるんですけど、火災では年間永山地区は10件程度の火災になるかと思います。先日も永山で大変大きな火災になりました。その中でも団員の高齢化ということと、かなりを占めているサラリーマン団員が、現場にすぐ駆けつけられないということがあるんですが、なにせ団員の確保が一番現状としては難しい問題だという。いろいろPRはしてるんですけど、若い世代の方でそういう方がいらっしゃれば。自分たちのまちは自分たちで守るという精神で頑張っておりますので、紹介いただければ非常に助かります。

(委員)

今回、永山まちづくりということで思ったのは、活性化。よく皆さん言われてるのですが、自分に何ができるかといったらお祭り関係を何十年もやってまして、屯田まつりに参加したこともありますし、そういった祭りの多くを、ちっちゃいお祭りでも何でも子どもたちのために、大げさではないんですけど、そういったもので盛り上げていきたいなというので、お力添えできればなと思って応募させていただきました。よろしくお願いします。

(委員)

今日ここでいろんな方々のお話を聞いて、すごく素敵な活動だなと思ったんですけど、参加したいと思ってもどんなことしてるんだろうとか、そういうのがあまり学生には届いていないかなと思っていて、活動したいと思ってる学生は少なからずいると思うので、もっともっといろんな素敵な活動が広まっていけば良いなと思いました。

(オブザーバー)

地域学校協働活動について、地域と学校が連携・協働している活動全てを地域学校協働活動といいます。すでにいろんなところで、特に永山地区でも取り組まれていることなので、特別なことではないんです。ただ、校長先生が替わったり、町内会長が替わったらできなくなったとか、そういうことが今までもあったということが課題にあがっていました。それで、学校と地域が連携協働していく体制が自動的に、組織的にできるようにということで、国が進めているのが地域学校協働活動という仕組みです。

永山中学校や永山小学校で地域とやっている活動は全部地域学校協働活動という位置付けとなります。

今教育委員会社会教育課としては地域と学校をつなぐコーディネーターを各中学校区に配置するという取り組みをさせていただいています。昨年度までは、3中学校区でやっておりまして、今年度から少しずつ全市的に進めていく動きをしようとしておりました。

地域の方がコーディネーターを担うような仕組み作りをと考えているところです。

それで、コーディネーターをやってもいいとおっしゃった方がいる地域の中学校区をモデル地区とさせていただくこととし、今年度から永山中学校区もモデル地区として取り組むこととなり、今日参加させていただいています。

今、子どもたちは忙しい。あと、学校も時間がない、忙しい。ということがあって非常に課題となっています。じゃあ地域の方はというと、地域の方も忙しい。その忙しい方の中でどうやっていくか。

永山地域の取り組みの中に、学校とできたら良いねということもありましたので、間に入らせていただければと思っています。こんなことができたら良いなを実現するために、お力を貸していただければと思っています。よろしくお願いします。

(オブザーバー)

今年からオブザーバーという形で、地域の方とつなぎ手という役割でお仕事をさせていただこうと思っています。些細なことでもお声がけしていただけたらと思います。永山中学校区という形なので、永山小学校、永山東小学校あと、永山西小学校の一部という形になると思います。で、先ほどお祭りという話もありました。最近、屯田まつりに小学校とかの参加率が少なくなっています。学校の中でしかできないと思ってしまう方が多いんですね。そうじゃなくて、地域の方と一緒に祭りを盛り上げていきたいので、もしあんの制作を小学校でやりたいとなったときにはお声がけさせていただいて、皆さんの今までの培った技術があると思いますので、せっかくこの永山にいるんですので、協力していきたいです。今後ともよろしくお願いします。

(オブザーバー)

皆さんの話をお聞きしまして思ったこと、確かに担い手が不足しておりますのも実感としております。反面、永山地域ではなかったんですけど高校生のボランティアさんとながかりまして、その学生さんから話を聞いた同じ学校のクラスメート達が「ボランティアの話をしてほしい」「ボランティア登録の説明をしてほしい」ということで、伺わせていただきました。そこの高校で、学生さん20名、ボランティア登録をしていただくことができました。ボランティア活動がきっかけで地域に興味を持ってもらったり、今の担い手不足の現状を知っていただく機会になるのではないかなということで、地域にお声がけしていたところだったんですけど、永山地域は幼稚園・保育園、小学校から大学まで揃っていて、これからそういう世代も地域活動に興味を持っていただくことで、お父さん、お母さんにも「うちの地域良いよ。町内会入ったらいいんじゃない？」なんていうような、つながり方にもなっていくのかなと考えておりまして、私も今後何かしらお力になれることがあれば、地域づくりに協力させていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

(会長)

先ほど、委員から場所がない、会場がないというお話がありました。手前どもの町内で今保育園だった建物を5月31日で購入することで決定いたしました。高齢者の皆さんが

居る場がない、子どもたちの遊び場がない。そんなことからそこを町内で何とかしようということで、スポンサーを探しましたら手を挙げてくれ、資金を出していただいてというように動きになりました。これは珍しい方法かなと思ってます。こんなこともできるんだなと実感をしています。

(委員)

屯田まつりについて、今までは学校であんどんづくりをしていただいていたんですけども。コロナ前までは出ていただいたりなんかもしたんですけど、コロナになったりそれから、働き方改革で先生方も、夜遅くまであんどんづくりできないんじゃないかなということで、その中でも永山中学だけは毎年出ていただいて、本当にありがたいと思っています。

屯田まつりは今年38回、再来年は40回の記念事業になります。

今、旭川で大きなお祭りは旭川市がやっております夏まつりとか烈夏、それから舞踊パレード、あと9月になったらマルシェがありますけども、今まであった神楽の花火大会ですとか、それから河川敷でやってました水まつりですか、あれも全部なくなったんですよ。今旭川で地域でやってる大きな祭りは屯田まつりくらいですからね、これは守っていいかなと考えておりまして。先ほど委員も言っていたとおり、なかなか市民委員会でいろんな行事部会ですとか人手を出してくれといっても高齢化でなかなか出てくれないし、探す方も大変なんだっていう話は昔から聞いておりますけれども、その中で旭川市立大学の学生さんに去年、おとしあたりから屯田まつりに参加していただいているんですよ。

特に舞踊パレードについては、ゼミの人たちが今年50人くらいで出られると。あと、あんどんの制作についても、旭川市立大学の学生さんが一緒に来て絵を描いて、手伝っていただいています。これからはますますそういう若い人たちを巻き込んでやっていきたいなと思っております。あと、この間屯田まつりをやる時に永山の歴史を展示したらいいんじゃないかと話していたんですけど、写真集だとか、いろんな農機具でもいいんですけどね、そういうのがあればいいかなと思ってます。とにかく屯田まつりは絶やさないでいきたいなと思っております。

(会長)

いろんな考えがおありだと思いますけど、この地域の未来のために各委員で連携してできることがないか、今後まち協で意見を交換できればいいのかなと思っております。

(6) その他

事務局から「旭川市民の日」まちづくり表彰、実行委員会実践交流会等について説明した。

6 閉会